

(様式第4号)

## 介護保険運営協議会 会議概要

- |   |           |  |      |       |
|---|-----------|--|------|-------|
| 1 | 審議会名      | 上田市介護保険運営協議会   |      |       |
| 2 | 日 時       | 令和2年12月25日 午後1時30分から午後2時28分まで  |      |       |
| 3 | 会 場       | 上田創造館1階文化ホール   |      |       |
| 4 | 出席者       | 荻原委員、清住委員、坂口委員、柴崎委員、春原委員、関委員、芹澤委員、竹倉委員、田玉委員、友松委員、橋本委員、森田委員、山浦委員、山寺委員   |      |       |
| 5 | 市側出席者     | 近藤福祉部長、藤沢高齢者介護課長、橋詰地域包括ケア推進係長、<br>矢野高齢者支援担当係長、笠井高齢者支援担当係長、下村介護保険担当係長、<br>小須田介護保険担当係長、半田高齢者支援担当係長、中澤高齢者支援担当係長、<br>井澤高齢者支援担当係長、遠藤高齢者支援担当係長、小山介護保険担当、<br>甲田介護保険担当 |      |       |
| 6 | 公開・非公開等の別 | 公開   | 一部公開 | ・ 非公開 |
| 7 | 傍聴者       | 0人   | 記者   | 0人    |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 令和2年12月28日   |      |       |

### 協議事項等

1 開 会 (高齢者介護課長)

2 あいさつ

3 協議事項 (橋本会長の進行)

(1) 第8期上田市高齢者福祉総合計画の策定案について

#### 審議概要

(1) 第8期上田市高齢者福祉総合計画の策定案について

(会長) ただいま事務局から説明がありましたが、御質問・御意見がありましたらどうぞ御発言ください。

(委員) 70頁、71頁のところですが、修正を入れていただき良くなったと思うのですが、災害については福祉施設等、避難計画等ができていますが、最近問題となっているコロナウイルス関連ですが、介護保険事業者に対しては資材の提供、認定者に対しては支援金、あるいはその他の支援とあるのですが、ニュース等を見ていると介護施設等で感染が発生してしまった場合にどのようにサービスを給付していくかということが一番問題になるわけですが、紹介されている事例としては一時的に他の事業者が要介護者を引き受けているということを行っているわけですが、これは同じ系列の事業所であれば簡単にできますけれども、そうでなければ市がコーディネートするということが必要になってくると思われるがその辺をどういう風にとらえてらっしゃるか。そういうことを計画に明記するべきではないかと思うのですが、その辺についてお教えいただきたいと思います。

(事務局) 感染症の関係につきましては、計画では細かく具体的な部分までは掲載していませんが、71頁の感染症に対する備え及び支援という中で、県との連携の中で支援をしていくという形で記載してあります。具体的には、市町村だけで発生した施設を支援するということは難しいということで、長野県全体で応援体制を構築する取り組みをしており、事前に

県で登録をしていただき、各事業所で発生した場合に職員を応援できるという形で、市町村だけではなく、広域的に対応できるという取り組みを進めている状況なので、実際に発生した場合には県全体で支援をしていくということで、計画書ではそういった部分を包括的に記載しており、実際にはそのような体制を整えていくという状況です。

(委員) 20 頁の表の末尾に、市ホームページに上田市自治会マップが掲載されていますと追加するというのですが、実は違っていて、北部地区の中に山口自治会が入っておりません。ずっと言っているのですが、修正すると言われているのですが、ここまで来ちゃってしまっていて、この近辺の方にとってはこれを見たら俺たちどうするかという話になりますので、その辺市の中で一度調整をしていただきたいと思います。私の方からは重大な欠陥だということで指摘はして、修正はするというので同意はしていますが、立ち消えになってしまっておりますので、今アイパットで確認してみますと従来どおりとなっておりますので、是非これはお願いしたいと思います。

(事務局) こちら高齢者介護課でデータを持っているわけではなく、市民参加協働推進課の情報がホームページに載せてあるということで、そちらに誘導する文言を掲載させていただいているという状況なのですが、担当課に確認しまして、実際の現状と違っているという状況で案内することが馴染まないということであれば修正したいと思います。いずれにしても担当課に確認をさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いたします。

(委員) 原案はもうできていますので、あとはホームページを変えていただければそれで済むことですから、打合せ等よろしくお願いたします。

(委員) 今日いただいた資料で令和 2 年の 10 月の要介護認定者の推移が出ているのですが、要支援者や事業対象者の部分がどこの地区も伸びてきているという状況があると思うのですが、そこに関連するところで、88 頁のところでは訪問型、通所型、表の中にいろいろなサービスが書かれているのですが、他の施策については実施見込みや目標が上がっているのですが、ここの部分については、今実際にどのくらいあって、どれくらい目標にしているという部分が、67 頁のところにはその部分があるのかもしれないのですが、その部分でどのように考えたらいいかお教えいただきたいです。

(事務局) 各サービスの目標値ということでよろしいでしょうか。

(委員) そうですね。他のところは令和 2 年度の見込み値と目標という形でわかりやすく書かれているのですが、この表に関してはその部分がないなと思ったのです。

(事務局) 相当サービス、A型は各指定事業所のサービスになるので、これをいくつ造りますとか、何人増やすということは目標としてどうかなということで今回載せてはいないのです。

(委員) 現状で相当サービスなり通所型の A もミニデイという形で結構やられていると思うのですが、その部分を上田市として数としてどのように見込んでいるのか。まだまだ必要と見込んでいるのか、今はほぼ充足しているということなのか、その部分が見えてこなかったのそこをお聞きしてもいいですか。

(事務局) 施設数につきましては、手元に資料がなく細かく申し上げられませんが、それぞれ今の事業所数で今のところは充足しているのではないかと考えております。ですが、今後事業対象者の方が増えていきますと、そのところで事業所がさらに増えていく必要があるかとは思っております。

(委員) わかりました。住民主体のところは 67 頁のところでは目標数という形で挙げているという

ころで、それ以外はこちらでどうにかできるものではないというところですかね。

(事務局) こちらで今通所の例ですと 23 事業所あるわけですが、これを 3 年後に 25 に増やしますという目標を建てたとしてもこちらでどうこうできるというものではございませんので、目標を建てたとしても結局目標どおりにならなかったということもありますので、この辺は市でどうこうできるという数字はないので、こちらには掲載しない方が良いのではないかとこのようにさせていただいております。

(委員) わかりました。多様なサービスの提供を推進しますと書いてあるので、足りないのであれば呼びかけるとか、そういうアクションは必要だと思うのですが、どうもこうもできないから数を挙げないということだと、市として逆に多すぎてきた場合にどうするのかとか、その辺の数というのはしっかり睨んでいった方がいいかなと思いました。

(事務局) ありがとうございます。

(委員) 12 頁の保険給付費の状況というのを平成 29 年から令和元年を見たときに、年々居宅系サービスの割合、比率、給付額は下がっていて、施設系サービスの給付額、割合は上がっている傾向にあるのですが、各圏域の元気高齢者の高齢者に必要な施策のアンケートのところでは、どこの地域も D の訪問系在宅サービスの充実というのがかなり高い割合で、高齢者の方のご希望は在宅の方、住み慣れた自宅だという希望がある。でも、実際は施設系サービスの方が増えていくような、この表を見させていただき限りではその傾向にあるのですが、この地域としては今後どのような状況になっていって、介護に関わる人材も不足している中で、適正に配置していくべきだと思うのですが、今後の見通しというか、実際の高齢者のご希望と実態が乖離しているような部分があるような器具があるのですが、その辺はいかがですか。

(事務局) ありがとうございます。12 頁でご指摘をいただきました給付費の状況、施設サービス費年々増えております。こちらにつきましては、わたくし共で考えておりますのは例えば特養などの施設整備が進んでいること、入所者が増えますとサービス費は増えてまいります。また、現在入所の入れ替わりが施設サービスではありますが、その中でも要介護 3 以上の方が施設入所になりますが、介護度が平均すると上がっている状況があるかと思えます。そういったところで施設のサービス費が年々増えているような状況です。こちらにつきましては、今後も増えていくのではないかと考えております。また、居宅のサービスにつきましては、要介護の認定者数、軽度の方といいますか、事業対象者の方ですとか、要介護 1、2 の方の割合が高くなってきていて、重度の方の割合が下がってきている状況もございます。そういったところで、受けられるサービスによりまして介護度によっても給付費、当然思いの方が給付費は上がってまいります。軽度の方が増えてまいりますとそれに従って給付費は減少していくような傾向はあるのかなと思っております。また、介護予防の関係で、市でも総合事業の関係等ありますが、そういったところも含めていく中で、予防の効果も少しずつではありますが現れてきているのかなと考えております。

(委員) 56、57 頁のところなのですが、56 頁のところにあります在宅医療介護連携の中で P D C A サイクルがありますけれども、これについてお尋ねしたいと思います。これは非常に重要なことで既に何期かやってきているわけですが、7 期の実績報告のところ質問したときに、課題の検討で止まっているという話がありました。当然 P D C A サイクルですから最後までやらなければいけないのですけれども、7 期と 8 期で期が変わって継続事業というものについては、どのようになっているのかというところを 1 点お聞きしたいと思います。よろしく願いいたします。

(事務局) 在宅医療介護連携の推進につきましては、平成 27 年に事業化されており、継続されている

事業でございます。今回8期に際しまして、国からこれまでの事業の取組を見直す中で、PDCAサイクルを回して行って、引き続き介護と医療の連携の推進に向けた取り組みを進めていくようになっておりますので、当然7期を引き継いだ形で検証しつつ事業を進めていきたいと考えております。

(委員) ありがとうございます。もう1点よろしいでしょうか。59頁と60頁のところにあります認知症の関係なのですが、若年性認知症に関しては細かく具体的に計画を立てていただいて本当にありがとうございます。前から疑問にも感じていたのですが、若年性認知症の方のデイサービスへの参加をコーディネーターの方、ケアマネさんから呼びかけられているのですが、高齢者主体のデイサービス等の中へ若年性の方が入るとするのは非常に入りにくいと、居場所がないと言われておまして、どうしても参加しない、引きこもりになりがちだと、この辺について最近、長野県若年性認知症コーディネーターさんなんかと市でもタイアップしていただいて、前にも丹野さんの講演会なんかもやっていただきましたけど、本人ミーティングみたいなどころへの参加というようなことも重要かと思えます。この辺についてまたご検討いただければと思います。本人ミーティングについては、信毎の12月15日のところに松本で行われた記事が出ております。この辺も参考にさせていただきご検討いただければと思います。よろしくをお願いします。

(事務局) ご意見ありがとうございます。今本人ミーティングの話があったのですが、本年度新規事業として認知症の予防教室というのを始めております。その中で、毎月予防教室を開催しているのですが、教室が終わった後に認知症の方やそのご家族を交えた中で、本人ミーティングというか交流会を当初企画しておりました。新型コロナウイルスの感染予防の関係で実施できないでおります。今後、新型コロナウイルスが収束してきましたら、そういった企画を再開したいと考えておりますので、ご理解をいただければと思います。また、デイサービスへ参加しにくいというところは、上田市に限ったことではなく、全国的に言われております。高齢者のデイサービスだけではなく、障がい者の就労系のサービスもそうなのですが、やはり利用者の皆さんとの違いというところから若年性認知症の方が利用しにくいというご意見をいただいております。県のコーディネーターの方とも情報共有をさせていただきながら、ご本人さんやご家族の方に適切な支援ができるように研究をしたいと思っておりますので、ご理解いただければと思います。

(委員) 国の政策としては、在宅で要介護度の高い方をサポートできるように体制を整えていきたいと思いますというふうな方針になっていると思うのですが、最近の上田市の状況を見ていると逆行しているなということで、在宅のサービスの中ではそういう重度の方を受け入れる体制をいろいろな事業所でとっているのですが、最近の状況の中で訪問看護にしても居宅にしても、通所等々にしても、重度の方を受け入れますよという体制を取り下げなければいけない状況になってきているところがすごくおかしいなというか、上田市だけの話なのか、全国的な話なのかよくわからないのですが、そうなるっていくと、在宅のサービス系の力が弱くなっていくと事業を縮小せざるを得なくなってくる。そうやってきたときに、これから先高齢者が増えてきたときに対応できなくなってくるという状況が出てくるのではないかなと、ちょっと心配しているところがあるのですが、施設入所の方が増えている部分が一番のところだと思うのですが、そういう支え方でいいのかなという部分を最近すごく疑問に感じているところでもあります。それをこの中にどう表現するというわけではないのですが、ちょっとこの先心配だなという状況があるので言わせていただきました。

(事務局) 先ほど説明の足りない部分もあったかと思いますが、施設入所の方の介護度が上がっているという話をいたしました。ただ、逆に考えますとそれまでの間は在宅サービスのある程度受けられていて、本当にギリギリになってから施設入所をされる方というのもおいでになっているのではないかなと思っております。今後は、在宅サービス、資料109頁に介護サービスの基盤整備という欄がございます。こちらは8期中の基盤整備ということで予定

しているものでございます。109 頁の (3) の地域密着型サービス基盤ということで、こちらの中に、例えば定期巡回の随時対応型の施設、また夜間対応型の訪問介護、こういった部分、7 期の中でも公募を行いましたけどなかなか応募いただけなかったという状況がございます。8 期の中ではそういったサービスの充実、当然すぐ施設入所ということではなく在宅でも暮らしていただけるようにということでこういった部分の計画はしてまいりますので、そういった部分で担えればと考えております。

(委員) いろいろな体制は整っているんだけど、利用する利用者さんが減ってきているというところが一番の問題じゃないかなと思うんです。これからどんどん体制を整えても実際に利用者さんが確保できないとなれば、その事業所は運営できないということになってしまうということ。

よろしいでしょうか。他にどなたかよろしいでしょうか。それでは御質問、御意見も尽きたようですので、この件については、皆様の御承認をいただいたものとさせていただきますがよろしいでしょうか。それでは御承認をいただいたものといたします。以上で本日の協議事項はすべて終わりましたので、協議を終了とします。